

先輩から⑩「通知表について」

特別支援学級の通知表は、いわゆる評定だけでなく具体的な児童生徒の成長を伝えることが大切です。児童生徒の教育課程によって様式は違ってきますが、どのようなねらいで、どんな活動に取り組み、どう変容したかを伝えるためには、記述によって表すことも取り入れていくと保護者に伝わりやすくなります。

私が通知表を作成するときは、成長した事実や児童生徒の頑張りを中心に記述することはもちろんですが、さらに良くなってほしいという願いも伝わるよう心掛けています。家庭でもこの通知表をきっかけに、これまでの学校生活を振り返り、温かく褒めて励ましてもらいたいという思いがあります。児童生徒は日々成長しています。伸びる「芽」は、学校でも家庭でもいろいろな場面にひそんでいます。家庭と手を携えて、児童生徒をしっかりと見つめてさらに伸びていくように支えていきたいという気持ちで書いています。これらの気持ちが保護者に伝わるように、以下の点に気を付けています。

1 記入する上で気を付けていること

(1) 伝わる通知表にするために

- ・伝えたいことを精選して、適切な文章量にしましょう。記述する様式の場合、あれもこれも伝えたいと思い、どうしても文章が長く、量も多くなりがちです。
- ・専門的な用語は使用せず、具体的に記述しましょう。どんな活動に取り組み、どう変容したかを伝えましょう。

(2) 学んだことを家庭につなげるために

- ・活動中での教師の支援方法や支援の度合い、支援のポイントなどが記述されていると、学習中の児童生徒の様子がよく分かるだけでなく、家庭での支援のヒントにもなり、連携にもつながります。

(3) 児童生徒の成長を共感するために

- ・「できた」ことを中心に伝えましょう。「できなかった」ことや今後の課題は、面談などの機会に直接会って伝えるようにしましょう。

2 渡すときに気を付けていること

通知表に書かれた内容を、児童生徒にも伝えましょう。自分の頑張ってきたことを認めてもらうことで、自信をもつことができると思います。